

地域公共交通はどこに向かうのか



西脇 親 議員
(改革未来・自民の風・加西市民の会)

問 必要とするのはどういった方々なのか。

答 市民の暮らしを守り、市の持続可能性を確保するために不可欠なインフラとして、移動の権利の保障と健康維持、安全安心なまちづくりの推進、行政コストの最適化です。

問 走らせる交通から、最適化される交通への転換を考えるといけなのではないか。

答 自動車と適正に役割を分担し、高齢者や学生などの移動手段を確保することで、外出機

会の創出、健康増進や地域活性化を促します。また、家族の送迎負担を軽減し、他分野の波及効果を高めることで、次世代へつなぐ持続可能な社会基盤を構築し、市民の生活環境を向上させることを目指していきたいと考えています。

問 条件、環境の異なる地域を一つにまとめることのできるのか。

答 その解決策として、MaaSの推進を掲げています。鉄道、バス、タクシー、シェアサイクル等の多様な手段を一つの移動サービスと捉え、検索、予約、決済を一括で行う仕組みです。

問 路線維持から生活維持、生活機能維持へと転換していく時期が来ているのでは。

答 デジタル技術を活用し鉄道、バス、タクシーに加え

て、シェアサイクル等の多様な手段を一つのサービスとして統合することで、検索、予約、決済の利便性の向上を高めているところです。既存の公共交通が届かない地域では、地域主体型交通の導入や、予約に応じて運行するデマンド型の方式も視野に入れ、効率的な方法を採用することで、持続的な公共交通を検討していきます。デマンド型方式等新たな交通の再編を行った県内自治会の情報を収集しながら、令和12年度に開院が予定されている市立加西病院の移転に対応した、交通網の再編に向けて、今後の方針を検討していきたいと考えています。

■その他の質問項目

- ・地域の活性化に向けて
- ・加西市の農業はどうなるのか

文化財保存の現状と歴史文化資料館(仮称)の設置構想



深田 照明 議員
(加西市民クラブ)

問 文化財の調査・資料整理・保管の現状は。

答 出土遺物の整理は洗浄、接合、実測図作成等の作業を行い、最終的に発掘調査報告書を作成して広く成果を公開しています。古文書等の資料整理は所蔵者への聞き取り調査、写真撮影を行い、名称、年代、内容などを読み解き目録の作成を行っています。現状、これらの作業すべてを埋蔵文化財整理室で行っており、保管は埋蔵文化財整理室と中野町の収蔵庫で管理しています。

問 遺跡出土品や古文書、民具など文化財は何点ほど保管されているのか。

答 土器などの出土遺物は保管管理用のプラスチック製コンテナに収納されており、整理作業中のもも含めて、コンテナは4,918箱あり、実数は各コンテナ内の収納数が違い正確な数は把握できていませんが数万点があります。古文書等の文書類は9万2,734点、民具は512点となっています。

問 現状の展示スペースは狭すぎるのでは。

答 埋蔵文化財整理室の展示室で玉丘古墳群出土遺物を中心に石棺や埴輪、土器など87点、また、玄関ホールに旧石器時代から近世までの発掘遺物を96点、合わせて183点を展示していますが、展示スペースが狭小で改善する必要性は認識しています。

問 歴史文化資料館設置の構想はあるのか。

答 貴重な歴史遺産や文化財を保存管理し、次世代を担う子供たちに伝えていくための拠点施設を設置することは、加西市のアイデンティティーを醸成する上でも極めて重要であると認識しています。予算的に高額な新施設整備計画は困難な状況ですが、既存の公共施設の有効活用も含めて、低コストで持続可能な形で資料の収蔵保管、展示機能が確保できないか、現実的な方法を検討しています。

問 学校跡地などの活用は。

答 泉中学校の旧校舎は隣にある北部公民館と併せた複合的施設として、有効活用できるのではないかと検討を進めています。